

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB085	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	PT. Adaro Power				
受入機関概要 (事業内容等)	1992年創業、資本金約800億円、インドネシア第2位の石炭会社(当時のデータ)を母体とし、石炭火力を中心とする発電事業を展開				
派遣期間	2013年9月18日 ~ 2014年2月28日				
現在の所属先	株式会社IHI		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	ソリューション統括本部 ソリューション営業部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

当時は石炭火力発電設備の海外営業を担当しており、有望市場であるインドネシア企業への派遣について上司からお話がありました。燃料サプライヤーであり、IPP事業者であるAdaro社の視点から、石炭火力市場についての理解を深めたいと考え、インターンシップへ参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

IPP事業会社のBusiness Developmentへ配属されました。カリマンタン島の炭鉱や発電所等での研修によってAdaro社の事業理解を深めた後に、国内外のIPP案件における経済性・リスク分析やパートナーとの交渉に従事しました。また、派遣先の上司と協議しながら、派遣期間を通じてインドネシアのPPP事業をテーマとする論文の作成に取り組みました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

炭鉱や発電所での現場研修、および実際の発電事業案件のサポートや社内外様々な方々とのディスカッション等を通して、IPP事業のみならずエネルギー事業全般について、幅広く理解を深めることができました。燃料サプライヤー・発電事業者の視点を学べたことは、メーカーである所属企業のビジネスチャンス検討にも役立ち、所属企業・インターン先企業との関係強化にも貢献することができたと考えます。また個人としても、インターン先でのグループワークや社内外での交渉・プレゼンテーションなどの実践を通して、新興国ビジネスに必要なスキルを学ぶことができたとともに、これから強化すべき自身の能力を見つめ直す良い機会となりました。ローカル企業の一員として実務に携わり、人脈構築、情報収集ができることは、本プログラムの最大の強みであると感じています。

インターンシップ風景



炭鉱での実習の様子



最終論文発表後の記念写真

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私はメーカーの営業部に所属しておりますが、PT. Adaro Powerの一員として活動したことで、それまでの私は設備を売る側の視点しか持ち合わせていなかったことに改めて気づかされました。例えば、PT. Adaro Powerは石炭会社を母体とする企業ですので、“石炭をどう活かすか”ということが彼らの最優先事項であり、石炭を活かすための幾つかの選択肢のうちの一つが発電事業なのです。そういった考え方を知ることができたのは、自社のビジネスチャンスを検討するうえで大変参考になりました。

現在は、当社に新設された組織にて石炭関連含む当社製品・技術を活かした事業者視点でのBusiness Developmentを担当しておりますが、インターンシップを通して学んだ視点、物事の方法が大変役に立っています。インターンシップを行ったAdaroグループとも、同じ目標を共有するパートナーとしての関係構築を目指し、継続的にコンタクトを行っています。

また、経済発展著しいインドネシアの現地企業での就業経験は、私自身の仕事に対する考え方にも影響を与えました。例えば、Adaroグループの意思決定や実際に行動するまでの時間はとても短く驚きましたが、これは日々発展する新興国ビジネスにおいては必要不可欠な姿勢であると感じました。私自身も、適切な判断力とフットワークの軽さを心がけて仕事に取り組むようにしています。

さらに、Adaroグループには、自分たちの会社は国を背負っており、この国の経済を発展させていくという高い意識を持つ方々が多く、自分自身の仕事が世の中にどのような影響を与えるかを考えるきっかけになりました。そのような高い意識をもつ上司や同僚と日々意見を交わし、共に仕事をする中で培った貴重な関係は、今でも公私ともに私の支えとなっています。

派遣にあたりお世話になりましたHIDAをはじめとする関係組織の皆様、インターン生の皆様、およびインターンシップ中に出会った皆様との貴重な関係も、大事な財産となっています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

個人としての成長はもちろんのこと、ローカル企業の一員として活動できることは、海外出張や駐在とは違い、このインターンシップ事業で得られる貴重な経験だと思います。企業から派遣される場合には、送り出す企業が今回のインターンシップで目的としていることや期待を明確にインターンに伝えることが成功につながると感じます。またインターン個人としては、インターンシップを自身一人の成長機会だけにとどめず、会社対会社の関係に発展させる意識が必要だと思います。何でも楽しむ姿勢を大切に、積極的に行動して、有意義なインターンシップを自ら作り上げていただければと思います。